

会 議 録

名 称	第5回 登米市部活動地域移行準備委員会
開催日時	令和7年5月23日(金) 午後2時 開会 午後3時20分 閉会
開催場所	中田庁舎 101会議室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登米市中学校長会代表(米山中校長) 佐藤 智哉 ○ 登米市中学校長会代表(津山中校長) 森 美紀子 ○ 登米市中学校体育連盟会長(中田中校長) 富士原昭裕(会長) ○ 登米市中学校体育連盟理事長(中田中教諭) 熊谷 篤 ○ 特定非営利活動法人登米市体育協会 会長 関 壮一(副会長) ○ 登米市スポーツ少年団本部 本部長 木村 健喜 ○ 登米市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長 大友 勝志 ○ 登米ジュニア吹奏楽団 団長 只野 正昭 ○ 元中学校美術教諭 主任児童委員 及川 英之 ○ 登米市PTA連合会 副会長 渥美 雅彦
事務局等職員 職・氏名	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登米市教育委員会 教育長 小野寺文晃 次長兼学校教育管理監 鹿野 征美 学校教育課長 猪股 勝徳 生涯学習課長 千葉 敬子 生涯学習課スポーツ振興係長 高橋 道広 生涯学習課スポーツ振興主幹 高橋 美香 生き生き学校支援室長 高橋 利恵 生き生き学校支援室係長 及川 知美 生き生き学校支援室指導主事 堀田 一真 生き生き学校支援室事務員 川村真希子
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状の交付 3 開会の挨拶 登米市部活動地域移行準備委員会 会長 富士原 昭裕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 先週、中学校では、市内10校のうち、8校が修学旅行に、7校は東京方面へ、1校は北海道へ無事に行ってきた。いよいよ今週末5月31日と6月1日は登米市の中総体ということで、どこの学校も力が入っているところ。 中体連関係で大きな事件事故等の連絡は入っておらず、年度が変わっても、相変わらず登米市の子供たちは一生懸命、運動に勤しんでいる。 ・ 昨年度に引き続き、この会議に参加させていただいているが、啓発活動をし、アンケート調査をし、今日の資料にもあるQ&Aの作成など、地域移行が進んでいっているなど感じる。昨年度のものに上積みをして、登米市らしい、地域に根差した子供たちのためになる地域移行ということで、委員の皆様方にはいろいろな面から、粹付けをいただいて、教育委員会の皆さん方と協力しながら、よりよい活動になればいいなあというふう願っているところ。 ・ 新しい委員の方も加わり、いい会議になりますよう、ぜひ皆さんのお力をお貸しいただきたい。 4 教育長挨拶 登米市教育委員会 教育長 小野寺 文晃 <ul style="list-style-type: none"> ・ 先週末、津山で行われた北上水系少年野球大会、三郡隣接バレーボール大

会に行ってきた。ここ数年、統合チームの参加が多く、特に野球で感じる。今回の中総体では、市内10校だがチームは7チーム。統合チームが2チーム、そのうち1チームは3校統合チーム。少子高齢化がこういったところにも大きな影響を与えているなど感じる。こうした現状をとらえ、様々な方面から意見をいただき、部活動の地域移行を進めていかなければならない。

- ・ 文科でも「地域移行」から「地域展開」など名称を変えようとしており、まだまだしっかりとした方向性が定まっていないなど感じる。大事なのは富士原会長も言ったように、子供たちにとってどういう活動にすべきなのかということ。資料をしっかりと提示しながらみなさんと登米市の持つ課題、そして方向性を話し合い、よりよいものにしていかなければならないと思っている。話し合いをし、実施に移す中にも必ず課題が見えてくる。そういうところを繰り返し、繰り返しやっていくことが登米市らしい地域移行につながっていくのだろうと思う。
- ・ 子どもたちにとって、多感な時期だからこそ、スポーツや文化芸術の楽しさ、すばらしさに触れて教えていくことが大事。新しく2名の委員の方も加わりましたので、忌憚のないご意見をいただければこの会の意味を達成していくのではないかとと思っている。

5 報告・説明

(1) 部活動地域移行周知動画アンケートについて

(事務局)

⇒資料2～5ページのアンケート結果について報告。アンケート結果をもとに登米市部活動地域移行Q&Aを作成。内容やQ&A活用方法等、協議してほしい。

(2) 登米市地域クラブ申請団体について

(事務局)

⇒周知動画を配信し、休日の地域クラブ団体や指導者を募集。5月15日現在で14団体、3人が個人で申請(資料7ページ)。今後の募集方法、認定する基準など協議してほしい。

6 協議

(1) 部活動地域移行Q&Aの内容・活用について(別添資料①)

(事務局)

⇒周知動画を見てのアンケート結果や登米市の部活動地域移行Q&Aは市ホームページに掲載するとともに、動画視聴依頼した小中学校保護者、教職員、登米市体育協会、登米市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、外部指導者等にQ&AやQRコードを入れ文書またはメールにて配信する予定。内容や活用方法等協議してほしい。

○登米市校長会代表(米山中校長) 佐藤 智哉

- ・ 外部指導者と話す機会があり、やはりこのような動きがあったときは情報が欲しいと言われた。Q&Aなど非常に有効な内容があるので情報を発出してほしい。

(事務局)

⇒周知動画視聴及びアンケートを依頼した経路で、小中学校保護者、外部指導者、教職員は学校を通じて、登米市体育協会や登米市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会など通じてそれ

ぞれ周知いただくことになる。

- 登米市中学校体育連盟会長（中田中校長） 富士原 昭裕
 - ・スケジュール的にはどういう風に考えているか。

（事務局）

⇒本日、協議いただき修正必要な箇所は修正し、次回7月の準備委員会で決定版をお示しし、そこで了承いただければその後、発信していきたい。

- 登米ジュニア吹奏楽団団長 只野 正昭
 - ・大会についてのQ1 2がスポーツだけが対象のような表現になっているので吹奏楽や文化芸術関係も入れてもらえると助かる。

（事務局）

⇒文化芸術関係も含まれる文言の表記に直したい。

- 登米市中学校体育連盟理事（中田中教諭） 熊谷 篤
 - ・中体連では、学校の部活動で出る場合は学校の保険、クラブチームなどの地域クラブとして出る場合はクラブチームで入っている保険を使うということになっているので、保険関係の記載がなかったので、記載した方がよいのではないか。

（事務局）

⇒記載していきたい。

- 登米市中学校体育連盟（中田中校長） 富士原 昭裕
 - ・けがの補償というところで保険関係や会費等の費用面も含めて記載していただくということをお願いしたい。

（2） 登米市地域クラブ申請団体について

（※①～③について事務局からまとめて提案させてもらい協議を行った）

①今後の募集方法について

（事務局）

⇒多くの団体や指導者の協力を得るために、市ホームページへの掲載やとめ広報掲載等検討している。効果的な方法等あれば意見をいただきたい。

②活動計画書について

（事務局）

⇒地域クラブとして申請いただいた団体に、活動のコンセプトなども含めた活動計画書（資料8ページ）を提出していただき、その活動計画書を基に、登米市の地域クラブの登録審査をしていく予定。受け皿となる団体や指導者のことを所属したい子どもたちや所属させる保護者の皆さんにも周知していきたい。

③登米市地域クラブ活動認定について

（事務局）

⇒運営体制や運営方針及び活動計画書を提出してもらい、7月もしくは9月の準備委員会で審査し、登米市で認める地域クラブとし

て認定したい。その審査について、認定する期間や認定する時期、県の中体連へ登録することを考えると、登米市の地域クラブとして9月から10月頃までに認定しないと地域クラブとしての登録につながらない。審査基準等の作成が必要と考える。

○登米市中学校体育連盟（中田中校長） 富士原 昭裕

- ・地域クラブに申請いただいた団体や指導者から資料8ページの活動計画書を提出してもらい、登米市の地域クラブとして認めるかどうかを審査し、活動コンセプトなどもわかるようにして生徒や保護者に周知していく流れ。周知の方法はホームページや広報誌の紙媒体等を考えている。一覧を見て興味を持った人が活動を選んで参加するということ。

○登米市スポーツ少年団本部 本部長 木村 健喜

- ・今、会長が話したように個人が地域クラブの一覧を見て興味のある団体に加入する方法もあるだろうし、部活動がそのまま移行していく方法もある。部活動の地域移行って考えたときに部活動がそのまま地域クラブに移行するスタイルが多いと思うが、その時に、書類審査だけでは学校との連携や部活の顧問の先生との考え方などのすり合わせを行うことができず、配慮しなければならない。学校と学校の合同パターンもあり、優先すべき地域クラブのパターン、基準となる地域クラブのパターンを決めるべきではないか。

（事務局）

⇒学校の部活動と連携して活動を行う地域クラブなど、学校とのすり合わせが必要な地域クラブが出てくる。基本的に国や県の基本計画を鑑みると、土日の活動については子供たちが自由に選択できるというような動きだが、懸念されるのは、ご意見いただいたように、学校の部活動と連携して行う地域クラブ。資料8ページの活動計画書では地域クラブとして中体連への登録について考えているのか、その受け皿となる団体のコンセプトなど記載してもらい、学校と連携して行う団体については部活動の顧問と連携をとるなどのルール作りは必要である。ご意見をいただき検討していきたい。

○登米市中学校体育連盟（中田中校長） 富士原 昭裕

- ・移行のパターンが様々考えられるが、学校の部活動がそのまま地域クラブに移行する場合、平日の部活動は教員が主に指導しているが、土日は地域の指導者が指導することになるので意見のすり合わせは大事になる。受け皿となる団体や指導者のコンセプトなどをどのように周知していくかも大事になる。

○登米市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長 大友 勝志

- ・私が中学生の頃は運動部や吹奏楽部など部活動には必ず入っていたが、今、部活動に加入している生徒の割合や運動部に入っている割合はどうなっているか知りたい。

○登米市中学校体育連盟理事（中田中教諭） 熊谷 篤

- ・今年度の市内生徒数が1, 781名で、運動部活動に所属している生徒が1, 311名。その他の生徒が470名となっている。昨年度に比べて大きくは変わっていない。

○登米市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長 大友 勝志

- ・思っていたほどスポーツ離れしているわけではないと感じた。まずは部活動の受け皿の募集をしていかないと成り立たないが、学校の部活動がそのまま地域クラブに移行する場合は、学校とのすり合わせや資料を見ると教員の兼職兼業ができるようなのでそうしないとなかなか進まないのではないかと。

○登米市中学校体育連盟（中田中校長） 富士原 昭裕

- ・難しいのは学校にある部活動がそのまま移行する地域クラブもあれば、生徒が選んで部活動とは違う地域クラブ活動に参加することもあり、さまざまな受け皿の団体が考えられること。今時点で17の団体が申請しているが、部活動がそのまま移行するような団体もあるが、そうでないところもある。資料8ページの活動計画書に記載する宮城県の中体連登録関係も変わってくる。
- ・昨年度も話に出たが、今は〇〇中学校のサッカー部に所属しているが、土日の地域移行になったらテニスをやってみたいからテニスの地域クラブに行くということも想定できる。その時に団体、個人どっちを選ぶじゃないが、やはり自分で選ぶときに部活動と同じ種目を選ぶかそうではないのを選ぶのかっていうのは分かれるところ。

○登米市校長会代表（米山中校長） 佐藤 智哉

- ・部活動と地域クラブ活動の関わりというのはそれぞれ千差万別で、いろんなパターンが考えられる。どちらの指導者も部活動、クラブチームのエゴを通そうとしてもだめだと思う。一番には子供の気持ちを優先し、例えば個としてこういう参加の希望をするのであればそれでもいいよと考えていった方がいい気がする。
- ・ロードマップとして地域クラブが中体連への参加を希望するのであれば、それに間に合うように日程の立て方と話があったが、非常に理想的だと思うしそれに越したことはないが、なかなか次年度に間に合わせるとなると日にち的に厳しく感じた。
- ・今年度、登米市のクラブチームが中体連登録した団体が2つ、北方クラブと丸山相撲クラブ。おそらくこの2団体は学校とは別にクラブ独自で登録をしたのでないか。学校の部活動とすり合わせをする地域クラブ、独自で動く地域クラブもあるというところからなかなか一概に時期的なものは示していただいたが難しい。目安としてはこの中体連登録というところは大きなポイントだと感じる。

○登米市中学校体育連盟（中田中校長） 富士原 昭裕

- ・宮城県の中体連で時期を決めているのでこちらがそこに合わせていくしかないのかなと思う。
- ・木村さんが話されたように、どこに所属しようと対象は中学生、今行っている各校の部活動がほぼそのまま地域移行団体になっていくときには学校との対面、地域の指導者との対話は必要で、どういう方向性に進んでいるかというのはその都度、合意形成していかなければいけないと思う。
- ・中体連はご存じのように、4月から8月の全国大会までが1年生から3年生まで、それ以降は1、2年生で3月まで進んでいくことになっている。その時々的人数や母数も変わってくるので、その新チームになったときに県の登録をして、県で認められた団体が中体連の大会にも参加できることになっている。

○登米市中学校体育連盟理事（中田中教諭） 熊谷 篤

- ・地域クラブで県の中体連に登録した場合、種目や競技ごとに条件等が変わってくる。例えばバドミントンの場合、中体連登録をしたクラブチーム同士で今のところ1つの枠を競って戦わなければいけないという、本当に狭き門。登米市の地域クラブの団体が中体連登録したとして、今後学校で出るのか、この地域クラブで出るのかということなど、チームとして組むためにかなりの労力があるのではないかと思う。

○登米ジュニア吹奏楽団団長 只野 正昭

- ・吹奏楽連盟の場合、登米ジュニア吹奏楽団が吹奏楽連盟に加盟申請した場合、そのメンバーは学校のメンバーから外れなくてはいけない決まりがある。だからジュニア吹奏楽団からすれば、一般団体として出なくてはいけない。今のスポーツの話、中体連の話を知っていると、多分、吹奏楽連盟も今後、変わっていくのだと思う。

○登米市教育委員会 教育長 小野寺 文晃

- ・スポーツだから、文化だからと切り分けできないことである。同時に部活動は団体競技に所属して、休日は個人競技に参加している場合、私は個人競技に出ますってなったときに、団体競技のチームが組めなくなる場合もある。やりたい活動というのが本当に子どもたちに保証ができるのかっていう問題もある。個人競技だったらどこでやろうと、どこから参加しようと大きな問題ではないと思うが、チームとなると組めるか組めないかからスタートしているので、どうなのかなという気がする。
- ・根本的に地域移行という言葉が、同じメンバーで同じような形で進めよというのが見え隠れする。その後、移行という表現や内容を変えているが、国が変わると県が変わり、県が変わると我々も変えていかなくてはならない。個人的には登米方式ではないが、何も一斉にしなくてはならないわけではないと思っている。アンケートでは保護者から、なんでバラバラなのかというような答えもあったが、できることから順次やっていく、スポーツも文化も併せて子どもたちの活動を募集していくのがいいのかなと思う。
- ・一番問題になるのは大会。今のシステムでやっていくと全国中体連はだいぶ見直しがある。市の大会があって県、東北、全国とつながっていく種目もあれば、陸上のように県で終わっても全国大会に行ける。大会の構成が今までは意欲になって、子どもたちの活動を活発にしてきた面もあるけれど、はたしてそれだけに頼っていいのかなと感じる。目指すものが大きければ大きいほど一生懸命やるのでわからなくはないが、一概にこれがいいとか悪いとか言いきれない。
- ・様々な問題があるが、皆さんの思いや気づきをくっつけて見えてくるものを一つ一つ拾い上げていって積み上げていかないと前に進まない。とにかく進めざるをえないのでよろしくお願ひしたい。

○登米市中学校体育連盟（中田中校長） 富士原 昭裕

- ・念頭に置くのは子供たちが活動するという事なので、その付随として中体連の大会であったり各種大会であったり、勝つことが目的ではない。

○登米市 PTA 連合会 副会長 渥美 雅彦

- ・Q&A の Q2 の「準備が整った種目から」とあるが、受け皿となる団体ではなく種目からなのか。〇〇中学校の野球部の受け皿となる地域クラブが整ったら市内野球部がという意味なのか。

(事務局)

⇒想定していたのは準備が整った、準備ができた受け皿となる団体と考えていた。学校の部活動がそのまま地域クラブに移行となる場合は学校との連携やすり合わせができた団体、そうではない独自の受け皿となる団体に関しては登米市地域クラブに認定された団体と考えていたのでわかるように表現を整理したい。

○登米市中学校体育連盟（中田中校長） 富士原 昭裕

- ・冒頭の説明にもあったが、急いではないので次回7月、それ以降も吟味をしていきながら、しっかり考え、皆さんに提示して大丈夫だろうとなってからホームページなどで周知をしていくことになるだろう。

○登米市教育委員会 教育長 小野寺 文晃

- ・切り替えできた部活、団体のメリットやデメリットのような、地域とともに一緒に活動したらこんな結果だったよというのがあると、ますますいろいろな考え、意見が出てくるのではないかと。

○登米市中学校体育連盟（中田中校長） 富士原 昭裕

- ・申請した団体や指導者を一度集めてミーティングのような地域クラブとしてのすり合わせが必要になってくるのではないかと感じた。我々学校で働いている教職員も共通理解をし、あとは保護者、実際に目の前にいる子どもたちにも説明するためにも、共通認識、共通理解に当たっていきたいと思う。

(3) 登米市学校部活動及び地域クラブ活動ガイドライン（案）の内容について
(別添資料②)

(事務局)

⇒昨年度、準備委員会で確認してもらい令和7年6月に発出予定だったが、県のガイドライン第2版が令和7年3月に発出され、登米市のガイドラインについても再度見直しをした。(修正、変更箇所について説明)

○登米市中学校体育連盟（中田中校長） 富士原 昭裕

- ・次回7月予定の準備委員会で最終確認をし、周知していく運びになる。

(4) その他

(事務局)

⇒市の新人戦以降、準備の整った団体から移行していくことを踏まえ、8月に研修会を開催したいと考えている。対象については地域クラブ申請している団体や指導者、市内の指導者、今後申請を検討している受け皿となるような団体、それから各学校の部活動担当教員など。持ち方については今後、調整していく必要があるが、登米市の地域クラブとしての認定について、コンプライアンスなどと考えていたが、研修会内容について協議していただきたい。

○元中学校美術教諭 主任児童委員 及川 英之

- ・都会の子どもたちは作品、彫刻や絵画作品を見る機会が多いが、田舎では美術館や博物館がなく触れる機会が少ない。実際の資料といっても教科書や展示品を見ることぐらい。私たち登米市美術協会では、彫刻もあるし絵画もあるし全国の展覧会にも出品している。そこで簡単にできる、子どもたちにとってより良い活動、また、より良い成長を考えると11月1日(土)、2日(日)に鑑賞の場を設けてやってもいいかなと考えている。日頃、表現活動に子どもたちは取り組んでいるが、鑑賞したことによってまた学びが少し広がるのかなと考えている。まだ策定中で中身がはっきりと固まっていないが、複雑ではなく単純に行えるかなと思った。ただ、考えなければいけないことは生徒指導上、障害のある子供がパニックになったり、担任に暴力を加えるとかそういう子供をどう把握するか考えなければいけない。

(事務局)

⇒ある程度の開催要項ができた段階で、それをいただければ次回の準備委員会資料として入れることができる。

○登米市スポーツ少年団本部 本部長 木村 健喜

- ・指導者の認定について資料6ページの認定基準だけで足りるのかなと感じる。指導者の人数によっては受け入れられる人数の上限がある。JSP0の指導者は4年に1回の更新手続があり、研修会にはポイント制で更新するまでに○○ポイント必要などあるが、部活動地域移行に伴って県独自で行っている指導者研修会については、その後の指導者のフォローがないので1回資格を取ってしまえばそれきりというのはどうなのかなと感じる。登米市独自の研修会システムを構築していく必要があると思うし、指導者の認定基準にもそういう表現を検討していただきたい。

○登米市教育委員会 教育長 小野寺 文晃

- ・登米市独自で研修会を開催したときに JSP0 のポイントに加算されれば指導者の人も参加しやすい。国よりは県、県よりは市の方が参加しやすいと思うし、木村さんが言うように取ったら取りっぱなしでは意味がない。

○特定非営利団体登米市体育協会 会長 関 壮一

- ・指導者協議会っていうのがあるからそこに働きかけていかないといけないと思う。宮城県でも部活動地域移行の指導者について、研修会について考えてもらう必要がある。

○登米市中学校体育連盟(中田中校長) 富士原 昭裕

- ・指導者の認定について入れた方がいい認定基準など改正版として次回の7月に提示していただければと思う。

6 閉会の挨拶 登米市部活動地域移行準備委員会 副会長 関 壮一

- ・子供たちのための部活動地域移行、登米市に合った形でやっていく必要があると感じる。課題はまだまだあるが皆様の意見を聞きながら、積み重ねていくような形で地域移行にしていきたいと思う。今後とも、始まったから終わりではなく、みんなで地域の中学生の部活動のあり方っていうのを考えていく必要があると感じている。子ども

たちも大変少なくなっている中での地域移行。学校再編などもあるが、そういう形も踏まえ皆さんと作り上げていきたい。

7 閉会

※ 第6回登米市部活動地域移行準備委員会 令和7年7月開催予定